

## 教育目標

『思いやる』  
「感動と活力のある学校」

『よく考える』  
「学ぶ期待のある学校」

『力強く生きる』  
「一人ひとりが輝く学校」



# 烏山中だより

烏山学舎 世田谷区立烏山中学校 校長 大友 文敬  
世田谷区南烏山 4-26-1 TEL 03-3300-6361  
FAX 03-3300-6363



## 誰もが力を發揮できる社会へ

今年、日本で開催されたデフリンピックでは、聴覚に障害のある選手が力を存分に發揮できるよう、さまざまな工夫がされていました。例えば、100m走のスタートは、音の代わりに光で知らせる「スタートランプ」が用いられています。この「スタートランプ」の開発を主導したのは、都立のろう学校の陸上部顧問の先生です。インターハイ予選に出場した教え子がピストルの音が聞こえず、周囲を見て慌ててスタートを切ったものの最下位に終わりました。試合後、聞こえないことによる不利に涙する教え子の姿をきっかけに、開発に取り組んだそうです。デフリンピックは、聞こえない人がスポーツに挑む姿を伝えるだけでなく、私たちに多くの気付きを与えてくれる大会だと感じます。

こうした「誰もが力を發揮できるようにする工夫」は、これから社会を担っていく子どもたちにとって、私たちの学校生活にもつながる大切な視点です。毎年12月4日から10日は「人権週間」です。互いの違いを理解し、思いやりをもって関わることの大切さを、改めて考える機会としたいものです。



## 心の根を深く張る2学期

カレンダーも残すところ、あとわずかとなりました。行事や日々の学習に真っ直ぐ取り組む生徒たちの姿に、本校らし

い「落ち着きと素直さ」を強く感じた2学期でした。しかし、その穏やかな水面の下では、中学生という多感な時期特有の、心の揺れや葛藤を抱えていたことも事実です。

思春期の真っ只中にいる子どもたちにとって、人間関係は、時に思いがけず人を傷つけてしまうことがあります。相手との距離

感がうま  
くつかめ  
ず、言葉足  
らずで誰  
かを傷つ  
けてしま



ったり、反対に周囲の目を気にしそぎて心をすり減らしたりすることもありました。また、「変わりたい」「役に立ちたい」という純粋な意欲が、自分の今の力と、うまくかみ合わず、思い悩んだ場面も見られました。こうした「うまいかなさ」は、決して否定するものではありません。むしろ、大人への階段を上るために避けては通れない「必要な摩擦」だと考えています。自分の不器用さに直面して立ち止まること。他人の痛みに触れて、自分の振る舞いを省みること。そして、理想通りにいかない現実の中で、それでも一步を踏み出そうとすること。こうした一

つひとつ  
の葛藤  
こそが、教科  
書では学  
べない、子  
どもたち



の「心の根」を深く、強く張っていくエネルギーになります。

最高学年である3年生は、そうした数々の葛藤を乗り越え、今、自らの進路という大きな課題に向かって静かに、力強く歩みを進めています。その姿は、後輩たちにとって「いつか自分たちもあのよう」と思わせる、確かな指針となつていて、と思います。



保護者の皆様。この冬休みは、お子さんが2学期に見せた「成果」だけでなく、その裏側で抱えていたであろう「迷い」や「悩み」も、労いの気持ちをもって向き合ってあげてください。「完璧でなくてもいい。悩みながら進むあなたを応援しているよ」。そんな言葉にしなくとも伝わる安心感が、3学期に向けて心を整える何よりの支えになるはずです。

## 心を整え、次の扉へ…

26日から、少しの間、日常の歩みをゆるめる冬休みが始まります。2学期を振り返りながら、心と体を休め、新しい年への準備をする大切な期間です。年末年始は、家庭で過ごす時間が増える時期でもあります。生活のリズムを大切にしつつ、お子さんの表情や様子にいつもと違う変化が見られた際には、早めに学校や関係機関へご相談ください。

3学期は、1月8日（木）から始まります。新しい年の始まりを、希望をもって踏み出せるよう、全員が穏やかな心身で登校してくることを願っています。どうぞ、良い年末年始をお過ごしください。

冬休み中、12月29日（月）と1月3日（土）は、警備員さんがいますが、12月30日から1月2日までは、学校に職員がいませんので、何かありましたら、1月4日以降にご連絡をお願いします。